

巻頭言

院長 今井克忠

今回仙台市立病院医学雑誌第29巻が発刊されることになり総説1, 原著5, 症例報告10, コ・メディカル・レポート4等, 院内各部所より多くの論文が寄せられました。長沼廣先生をはじめとする編集委員の方々の, 数多くのご努力に心より御礼申し上げます。実は当院の復活創刊号は昭和55年4月に旧病院のスタッフの大変なご苦勞の元に出来上がったと聞いており, 開院日の7月1日が発行日となっています。このときのメンバーの的場直矢, 渡邊至, 大滝正通, 伊藤明一各先生方に小生もVol.2~Vol.14までの13年間編集幹事として参加したのですが, 何をお手伝いしたのか思い出せず恥ずかしい限りです。

新病院移転半年前の昭和54年12月, 的場先生に呼ばれて仙台市立高等看護学校と準看護学校両方の生徒に泌尿器科の講義をするように依頼を受けました。泌尿器科を開設するにあたり自分にとっても勉強になることから快くお引き受けしたのですが, 何せ各疾患を説明するにも殆んど資料がありませんでした。しかしそれ以来少しずつ症例を重ねてゆき, 数年後には提示する症例の殆んどが自験例になったことに気づきました。即ち仙台市立病院は症例の宝庫なのです。精巣腫瘍の中でも精母細胞性精上皮腫や小児精巣腫瘍例は大変珍しいのですが, これも当院での自験例として他誌も含めて報告しています。第2巻発刊のときに他誌に投稿しようと思っていた原著をカラー写真で載せられると誘われ, また本雑誌は医学中央雑誌に登録されていることから迷わずに投稿したことが懐かしく思い出されました。

指導医の先生方は勿論のこと, 研修医の皆さんにとって日常の大変忙しい臨床の中で, 学会発表のみならず論文を仕上げることの大変さは十分にわかっているつもりですが, 折角の機会ですので臨床研修の集大成としてまたその証として, 大いにチャレンジしてみたいかがでしょうか。継続は力なりです。今後のますますの内容の充実を期待して巻頭言といたします。